

荒川神社と栄出の滝

今の荒川神社の話です。昔は八竜神社と称し、大同二年九月の遷座と伝えられています。祭神は、豊玉姫命です。水神として農耕地帯の人々に崇拜され、ことに森田領主大田原累代の崇敬した神社でもあります。大正三年、岩子の春日神社を合併して荒川神社と改称しました。

むかし、あったと。

田野倉一帯が日照りで悩まされた夏のことだ。作物の立枯れはひどく、餓死者さえも出たそう
だ。

「どうしたらよかんべ」

村の若い衆たちが集まり、いろいろ知恵を絞ったあげく、

「竜出の滝の竜神にお願したらどうだ」

と、いうことになったんだと。

それから何日かたつて、村のひとりがこの滝壺には、「おがま」「めがま」とよばれるふたつの岩釜のあることに気づいた。そこで、若い衆たちは、干上がったふたつの滝壺に火を焚き、「雨を降れ」と、大声をあげて竜神に祈りを捧げ、雨乞いをしたんだと。

すると空がにわか曇り、一面黒雲に覆われたかと思うと、ぽつりぽつり振り出した雨は、たちまち大雨になって、干上がついていた「おがま」「めがま」は雨水で溢れ出し、田畑に水を潤したんだと。

そんなことがあってから、この岩釜の水は不思議なことに、いくら使っても干上がることはなくなつたんだと。

「まさに竜神様のご利益だ」

と村人はよろこんで、この岩釜を大切にし、竜神を八竜神社として祀るようになったんだと。

それからというもの、夏の日照りが続くと、この岩釜を清掃してその水を神社にあげて雨乞いしたため、度々の干ばつから免れることができたんだと。

餓死者が出るほどの干ばつを救った「竜出の滝」をいつの頃からか、繁栄の意味の由来から「栄出の滝」というようになったそうです。

おしまい